

検討の視点(案)

検討の視点(案)

(1) 実務経験不備事案の原因

○ 実務経験不備事案の調査結果から、その原因は、**①受検前の実務経験を積む時期**、**②受検申請・審査時**、**③受検時**、の3つのプロセスごとに、防止対策を検討する必要があるのではないか。

表1 不正事案における各段階での問題点

| | ① 受検前 (実務経験を積む時期) | ② 受検申請・審査時 | ③ 受検時 |
|---------------|---------------------|--|----------------------|
| 証明者 (企業) | ・社員の実務情報を適切に管理していない | ・受検者の実務経験を確認できる仕組みがない | — |
| 受検者 (個人) | — | ・実務経験の算定方法への理解が不十分である | ・対策本の模範解答の勉強で解答できている |
| 審査者 (試験機関) | — | ・受検申請～合格発表までに詳細な審査は難しい (複数試験の1・2級試験あり) | — |

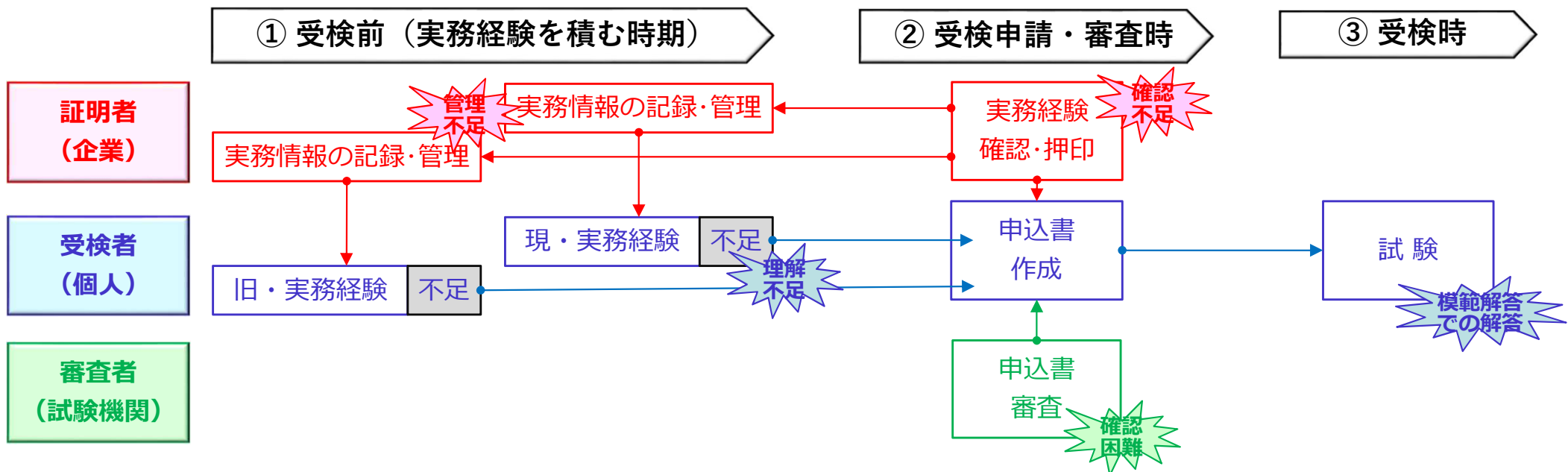


図1 不正事案における各段階での問題点

検討の視点(案)

(2) 防止対策の検討の視点 (たたき台)

○ 受検までの3つのプロセスについて、**受検者・証明者・審査者ごとに**、すぐに実現可能な対策、将来的に実現を目指す対策など、**実現性を勘案しつつ具体的な実施方法の検討**を行う。

①受検前 実務経験時

視点1. 社員の適切な実務情報の記録・管理のあり方

- 不正事案では、受検者の実務状況を記録・管理が不十分。
→実務経験を確認するための実務状況の記録・管理のあり方の検討が必要ではないか。【証明者への対策】



視点2. 実務経験の適正な申請・証明のための確認方法と不正申請の抑止策

- 受検者は、実務経験の算定方法の理解が不十分。
→受検者が実務経験を確認しやすい方法の検討が必要ではないか。【受検者への対策】
- 証明者は、旧所属企業での実務経験を確認する仕組み無し。
→実務経験の確認のあり方及びそれをチェックする方法の検討が必要ではないか。【証明者への対策】
- 審査者は、複数の試験を担当しており、多くの受検者の実務経験の詳細までの審査に限界。
→効率的かつ着実な審査事務につながる受検申請方法のあり方の検討が必要ではないか。【審査者への対策】
- 不正申請の抑止策の必要性。
→不正申請に対するペナルティによる抑止の検討が必要ではないか。【受検者への対策】 【証明者への対策】



③受検時

視点3. 実務経験に基づく能力の評価方法

- 「実地試験」は現場での知識・ノウハウ等を問う試験であるが、実務経験に不備があっても市販の対策本の模範解答で解答し合格する可能性の指摘あり。
→現場経験をより確認できる試験問題・方法のあり方の検討が必要ではないか。【受検者への対策】